

第3回 第五次門真市学校適正配置審議会 議事録

開催日時 令和6年3月4日（月） 午前10時～午後0時

開催場所 門真中町ビル2階 会議室E

出席者 新谷龍太郎、西孝一郎、横山俊祐、岡本富男、勝川喜美子、川村早余子、小阪和之、後藤忠夫、日置芳太郎、平生眞悟、藤田俊和、船越叔美、本田貴裕、山田颯、岩佐美奈子、脊戸利子、邨橋雅広

事務局 八木下副教育長、鈴木教育部長、大倉教育部次長、峯松教育部総括参事、渡辺教育企画課長、高岡教育総務課長、高山学校教育課長、宮崎教育企画課課長補佐、古川教育企画課兼学校教育課副参事、藤澤教育企画課主任、奥本教育企画課主査

傍聴者 1名

議 事

○開催

事務局

定刻となりましたので、第3回門真市学校適正配置審議会を開催いたします。

本日はご多忙の中にもかかわらず、ご出席いただきありがとうございます。

本日、司会を務めます、教育部教育企画課の奥本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

現在のところ、18名中16名がご出席されており、門真市付属機関に関する条例の施行に関する門真市教育委員会規則第5条2項の規定により、会議が成立していることをご報告申し上げます。吉岡委員、後藤委員につきましては、のちほど来られる予定となっております。

なお、本日、傍聴者が1名いらっしゃいます。

次に、お手元の資料の確認をしたいと思います。

- 1点目 会議次第
- 2点目 審議会委員名簿
- 3点目 資料1 第2回審議会のふりかえり
- 4点目 資料2 学校の再編にあたっての基本的な考え方
- 5点目 資料3 学校位置図
- 6点目 資料4 学校の児童生徒数と学級数一覧

7 点目 資料5 門真市立学校の築年数です。過不足ございませんでしょうか。それでは以降の進行は会長にお願いしたいと思います。会長よろしく願いいたします。

会長

すみません、マスク取って進行させていただきます。皆さん、おはようございます。本日も月曜日の午前の時間、お忙しいと思いますが、お集まりいただきありがとうございます。この会議も3回目を迎えます。前回、前々回は、門真市がどういう教育をめざしていくのか、特に「つながり」というキーワードが門真のめざす教育の中心的テーマになっていて、そのつながりをベースにしてキャリア教育を進め、1人1人の自立を促すということを基本的な考え方にしていることを確認しました。あわせて、協働的な学びとか個別最適な学びという新しい教育が文科省を中心に進められてきており、それに向けてもきちんと対応していく必要があることも確認できたと思います。そこでは生きる力をどう育成していくのかが求められており、それに合わせて、門真の学校をどういうふうに再編していくのかを考えたいというのが1つ。2点目は、もうこれも皆さん既にご存知だと思いますけれども、門真のそれぞれの学校の児童生徒数の動向について、大きく言えば減少傾向にあり、学年1学級の学校が現存していますし、これからは増えていくであろう。そういう児童生徒数の減少とさっき申し上げた「つながり」ということを考えると、やはり、いろんな人といろんな関係を持つことによって初めて「つながり」の成果が出てくる。少ない人数でつながりを作っていく、密なつながりを作るということも一つの考え方としてあると思いますけれども、この門真で考えていることは、なるべくいろんな人とつながることです。それをベースにしながら教育を進めるには、学校規模について考える必要があるのではないかとということです。それから、老朽化に関しても、いちばん古いのは昭和39年だったと思いますが、昭和40年代、50年代建設という、相当に古いものも出てきていますので、新しい教育とか門真のめざす教育を実践していく上では、古い校舎は間尺に合わないという問題もあります。そういうことを含めて学校再編をどうしていくのかということがこの会のミッションでして、前2回で、皆さん方、基礎体力はつけていただいていると思います。それを土台にして、再編にあたっての基本的な考え方が、資料2に整理されています。本日は、まずは、資料2の基本的な考え方について、皆さん方で議論していただいて、学校再編をどのような考え方でやるのかということをご確認いただき、定めていきたいと考えています。これが本日の議題の1点目です。もう1つは、それを踏まえて、具体的にどの地域の学校をどういう風に再編するのかということです。この会は8回用意されています。今日全てを決めるということにはなりませんが、具体の再編の方法について今日からスタートをしていき、8回の議論を通して、一定の到達点を見たいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。というのが今までのことと本日の議題のご説明です。初めてご参加いただいている委員がおられますので、すいません、一言ご挨拶お願いできますか。途中で申し訳ありません。

委員

門真市こども会育成連合会 会長藤田でございます。よろしくお願いいたします。

会長

では、議題を進めます。前回の審議会のふりかえりから始めたいと思います。事務局お願いします。

○第2回審議会のふりかえり

事務局

案件1.「第2回審議会のふりかえり」について説明をさせていただきます。資料1をご覧ください。01まず、「門真のめざす教育」についてです。

縦のつながり、横のつながり、将来の自分とのつながりの3つのつながりを大切に、人とのつながりを積み重ねて、自分自身を振り返って、自分の生き方を考えていく。そして最終のゴールである将来の自立につなげていくのが、門真のめざす教育です。

具体的に人とのつながりを大切にした門真のめざす教育を教育活動に落とし込んで実現しようとしているところで具体的な取り組みとしては本市のキャリア教育でございます。令和5年2月に策定し、人との「つながり」の視点を大切にした「門真市版キャリア教育」を実践するため、現在、各中学校区で「キャリア教育全体指導計画」の作成を行うなどの取組を進めております。

前回の審議会のご意見としては、人とのつながりの中に「異文化とのつながり」を入れてはどうかや、つながりと言われているが実際校区によっては学校と地域がつながれていないのではないかどのご意見が出ました。

次に02「小中一貫教育」とはで西副会長に講演いただきました。小中一貫教育とは何かをご説明いただいたのちに、なぜ小・中をつなぐのかを過去と現在の子どもの成長度合いをグラフを用いてご説明いただきました。

そして共有・一貫性・系統性の3つのキーワードで「わかりあい、そろえて続けて、つなぐ」ということが小中一貫教育であるという説明をいただきました。

意見としては、授業スタイルをそろえるなどの方法論が先行するのではなく、どんな子どもを育てたいのか、子どもたちにどんな力をつけたいのかを小中でしっかりと考えた上で、「そろえる」ことが大切であるといった意見をいただきました。

そして、「人は人を浴びて人となる」という言葉を西先生に教えていただきました。人は人を浴びて人となるということで、たくさんの人の影響を受け、ようやく人となるといったことだったかと思います。子どもを人とのつながりの中で育て、「将来の自立」をめざすまさに門真の教育とぴったり合う言葉であると感じました。

次が資料の左側の03 門真市立学校の変遷についてです。

人口の変化として1970年ごろにかけて人口は一気に増加しましたが、R5年の児童生徒数はピーク時（1980年）の27.5%にまで減少しました。

学校分離と学校統合としては旧村の4校（門真小・大和田小・二島小・四宮小）であったものが、1960年代以降、人口増加により分離していき小学校が増えて行きました。旧村4校については約150年の歴史がございます。

ご意見としては今の校区割りで考えていくのではなく、通学路などを考えた上で校区割りを考えるのも手ではないかなどのご意見がございました。

最後に 04 学校再編にあたっての基本的な考え方についてです。

①これからの教育②児童生徒数の推移③校舎の老朽化④まちづくり⑤これまでの変遷を踏まえた上で、今後対象となる学校等を検討していくことを確認させていただきました。

審議会でのご意見としては老朽化した校舎への対応、そこに関してはその通りであることや、子どもたちや働く先生の気持ち的にもきれいな校舎がいいと思うなどのご意見がございました。この考え方についてはのちほど、改めて事務局より説明をさせていただきます。

前回いただきました貴重なご意見も踏まえ、門真のめざす教育や今後の再編統合等に生かしていきたいと思っております。

以上が、第2回審議会のふりかえりでございます。

会長

はい、ありがとうございます。前回の振り返りですが、何かこれに関して付け足しておきたいこと、あるいは修正すべきこと等ございましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。前回何をやったかっていう記憶は蘇ってきたのではないかと思います。よろしいでしょうか。

委員

すいません、資料の 02 のところなんですけども、一番下のところに、縦のつながりを作る小中一貫教育、人は人を浴びて人となる、この人とのつながりの中で育てたいというのは全くその通り、私もそうだと思うんです。ただ、この時に考えておかないといけないのが、子ども同士のつながりの中では、いじめがあったりとか、子ども同士のつながりの中でうまく自分の思ってることを言えない、コミュニケーション能力がやっぱり低下してる子どもがいて、その中で不登校が起こってきている。実はこの子どもたちが今だんだん増えているのを頭においてこの子どもたちに対する学校をもう一度考え直す必要があるかなと私は思ってるんで、その点、ぜひお願いしたいと思います。

会長

これは学校の実際の運営の中での議論になってくると思いますので、まず「つながり」をつながりとしてきちんと大切にして、その中でそういう問題が出てきた時の対処を考えていくということでよろしいですか。

委員

はい。ただ、これがかなり大きな課題だと思います。

会長

他にいかがでしょうか。よろしいですか。では、前回の振り返りはこういうことがあったということでご確認いただきました。ありがとうございます。続きまして、学校再編に向けて議論を始めるわけですが、まずは、前回も少し話が出たのですが、皆さんが納得できる再編をしたい、すべきであるというようなご意見がございました。納得できる再編のためには、基本的な考え方を皆さん方で議論していただき、定めていただいて、了解していただく必要があると思います。それについて、何度もやっているような気もしますが、再確認をして、修正すべきところは修正、それから、具体的なことに関してはもう少し具体的に、基本的な考え方を押さえて、そこから再編の問題、具体的な問題に移りたいと思います。まずは、この基本的な考え方について議論をして、これを定めていきたいと思います。事務局から再編の考え方についての説明をお願いします。

○学校の再編にあたっての基本的な考え方について

事務局

はい。教育企画課の古川です。本日お配りの資料2、前回の資料8になるかと思います。学校再編にあたっての基本的な考え方について、なぜこの考え方を示しているのかも含めまして、改めてご説明をさせていただきます。

まず、左から行きます。①のところですが。①は端的に言いますと、どんな教育が求められているのか、また門真はどんな教育をしたいのかということでございます。子どもたちが多様化している中で、その子にあった個別最適な学びや、子どもたち、教師や多様な他者との協働的な学び、これを一体的に充実させることが、令和の日本型学校教育ということで国から求められております。また、門真のめざす教育においても、ここで言う協働的な学びと同じくですね、多様な他者、つまり多様な人とのつながり、これを大切にしたい教育を行い、将来の自立をめざしております。そして、それを実現するためには、前回、西先生にもお話しいただきましたように、小中でどんな子どもに育てたいのか、子どもたちにどんな力をつけたいのかをしっかりと話し合い、共通認識をした上で、子どもたちの様子を伝え合い、取り組みなどをそろえて続けて、そしてつなぐ小中一貫教育、この視点が重要となります。そして、今説明させていただきましたこの令和の日本型学校教育や門真のめざす教育は、どこかの学校でやっていくものではなく、門真市すべての学校で実現に向けて取り組んでいくものでございます。再編統合も含めて、この左側の①の実現を目指していくということは前提になるというところで、ここで1番最初に①として記載をさせていただいております。そして、これらの教育を実現しやすい環境を整えるという意味で、本当であればすべての学校をすぐにも新しい校舎に建て替えられたら本当はいいんですけども、一個建てるだけでも、数十億円というようなお金が必要となります。市の財政的に、全ての学校を、例えば一気に建て替えるということは、正直なところ厳しいというところがございます。このことから、どの学校からこの校舎をより良くしていくのか手を付けていくのか、どうしても優先順位、これをつける必要があるのかなと考えております。その上で検討していただきたい、検討材料としていただきたいものが、この中央に置いております②③のところでございます。児童生徒数と校舎の老朽化です。

まず、②については、子どもの数が少ないからじゃあ統合しましょうということではなく、人数が少ないことにも冒頭横山先生がおっしゃったように、良さがあつたりします。ただ、先ほど横山先生がおっしゃっていただいたように、国や門真がめざしている教育というのは、多様な人とのつながりを大切にしているというところでございます。このつながりを大切にした教育を行うためには、やはり単学級ではなくて、一定の児童生徒数が必要であると考えております。このような理由から、この児童生徒数や学級数を考慮して、学校の再編を検討していただきたいと考えております。

次に、その下の③については、実情等も、お聞きしながら、築年数を中心に老朽化している学校を見つけていくということになるかと思うんですけれども、全ての学校を建て替えることは、先ほども申し上げましたように、財政的にも、そして体制的にも厳しい現状でございます、限りある財源の中で、より良い学校を作っていくためには、例えばですけれども、1校をそのまま建て替えるということではなくて、2校や3校を1校に統合して建て替えるということで、その校舎に、しっかりとお金をかけることができまして、結果として、考え方①の教育の実現であつたり、そして子どもたちがより安心・安全に学校生活を過ごすことができる教育環境につながったりするのではないかとこのように考えております。このことから、②③を中心に話し合っていて、まずは再編統合する学校が、どの辺りの学校なのかなといったようなところをイメージしていただけたらというように考えております。

そして、右側の④⑤でございます。②③で一定、この学校とこの学校みたいなイメージがつくかなと思うんですけれども、その学校は、校区だけを見て再編等をする学校等を決めてしまうと後々困ることも考えられますので、今回につきましては、門真市全体の学校の、例えば、10年後であつたりだとか20年後、30年後の将来像をイメージしながら再編統合を考えていただきたいと思っております。その際、検討材料としてこの④、⑤の視点を持っていただきたいというように思っております。端的に言いますと、場当たりの統合にならないように、門真市全体の将来像を見た統合をしたいというように考えております。

最後にまとめますと、①の部分が前提の部分です。そして、中央の②、③を中心に優先順位を検討していただいて、そして、その学校・校区だけを見過ぎないように、注視しすぎないように、④、⑤の視点を入れて全体像であつたり将来像を考えていただきたいという意味で、この考え方、順序でお示しをさせていただいております。以上が学校再編にあたっての基本的な考え方についての説明でございます。

会長

はい、どうもありがとうございました。非常に明快なご説明だったと思いますが、これがこれから再編を具体的に考えていく時の基本的な考え方になりますので、これについてまずは慎重に議論をして、内容を確定したいと思います。

①の門真のめざす教育ですが、前の審議会でも議論がありまして、その時につながりということ、それから一貫教育を超えた令和の日本型教育の実践ということはほぼ定まっております、それをベースにすでに水桜学園は動き始めています。そういう意味で、これを大きく変えるのは厳しいかなと思うのですが、もし付け加えておく必要があるようなこと、ある

いは再編に向かう動きがもっと豊かになるということがあればご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。これはこのままでよろしいですか。何か足しておくことがないでしょうか。今日は、つながり、それから令和の日本型教育でつながりを具現化するという方法として、小中一貫教育、あとこども園、保育園・幼稚園を含めて幼保小の連携ということも視野に入れての一貫。さらに上の方も、中学から高校、大学、社会というつながりも一貫に含まれると思いますので、そういう視点で一貫教育をお考えいただければいいと思います。これに関してはこの方向でいく、これがベースになる、前提になるということで皆さんご了解いただきました。

次いで2番、児童数を考慮して検討したいということで、分かりやすく言えば、単学級は子どもの数が少なく、多様なつながりを考えていく時に不十分ではないか、だから単学級の学校は解消しようというのがこの2番の基本的な考え方です。単学級というのは学年1クラスしかない学校です。そういうところを2学級以上の学校にして、多様で豊かなつながりを生んでいこうという考え方です。単学級解消ということを基本的な考え方にしたいというのはいかがでしょうか。

委員

単学級は、クラス替えが全くなく、6年間同じメンバーで過ごすことになるんです。そうなりますと、多様性の中で学ぶのは厳しいので、単学級の学校は、検討していく必要があると思います。1学年3クラス程度で、小学校の場合であれば、例えばクラス対抗戦なども切磋琢磨して子どもたちが競い合えますし、いろいろな子どもたち、いろいろな先生に出会えるチャンスがあります。3クラスが子どもにとっては一番良いかと考えております。

会長

ありがとうございます。3クラスとかちょっとできるかどうかわかんないですけど、目標はそこということで。

委員

私もそう思います。感じていることとしては、再編をどうしていくかという考え方なので。学校の子どもの教育ってすごく大事で、教育については絶対ベースになるべきである。でもその教育についての審議をしていると、多分再編の話ができない。この間の会議では、どちらかというと再編というよりも教育にすごい力が入った印象だったんです。そこはベースとして全員が理解しておくべきだと思います、最低知識として。色んな事象1つ取っても多分いい面と悪い面があると思います。例えばクラスの単学級を解消することでは、単学級にもいいところがあります。でもデメリットもある。大きい学校にする上でもメリットとデメリットとがあると聞きます。いろんな事案に対して、議論するっていうよりも、きっと有識者の方々が皆さん研究をして発表されていると思うので、そういったものを調べていただいて、資料として出していただいて、それを踏まえて、じゃあどう再編するっていう議論にしたい。前にいただいた資料の中でも、もう今、門真市が8000人だか6000人だかに減ってきてい

る。学校が元々4つぐらいだったのが、人口増を機に増えたけど、もうそれが元々あった4つぐらいのところにまで人数が減っている。今からお金をかけて校舎をどうするっていう時に、今回、水桜学園が新しくなりますが、どういう風に検討して作られたのか。そこにゆくゆくは他の校区も入ってくることを考えての水桜学園なのか、そこだけを小中一貫校として考えたのか。私はそこはわからないんですけど、新しい校舎を建てるにしても、今の校舎を改修するにしても、やっぱり人数がどう減っていくかが大事です。再編するにあたっては、この間の話にありましたけど、多分地域の方の声とか 保護者の声とか子どもたちや先生の声もあると思います。きっと先生とか教育委員会が避けては通れない大きい声があると思うんですけど、その声じゃなくて、こうするんだって言い切るまでの覚悟がここにあるのかなのか。そこがやっぱり超えられないと言うなら、ある程度は飲まないといけないお互いに妥協し合える着地点を見つけられるよう、あらかじめそれも踏まえた上で、じゃあどの辺に配置をして、新しい学校にするとか建て替えるという、その場所までも、聞かれたら示せるっていう、そういう話をこの審議会ですらないといけないんじゃないかなと思います。8回とかしかないんだったら、そういうところをしないと。もし、地域の人とか保護者の人とかに、なんでうちの学校が統合されるんですか、廃校になるんですかと言われた時に、せめて私たち委員で、ちゃんと説明ができて、みんなが違ったことを言わない。実は自分はそうだったけど、でもこういう総意があって、と説明ができないといけない。多分みんながみんな全員が、はい賛成っていうわけではないと思うんです。物事って、賛成もあれば反対もあるけど、でも総意としてこの方向にっていう、せめて何か聞かれた時には説明ができるような会議の内容と話し合いをしたらいいんじゃないかなと思いました。

会長

これから色々議論をして、具体的にここここは一緒にしてとかいう再編の話が決まれば、審議会の役割は一定程度完了するのですけれども、その時にも、地域の人に納得できる説明ができなさそうですか。

委員

いや、今はできないですね。

会長

どこら辺が問題ですか。

例えば教育をこんな風に考えたいということがありますか。例えば、規模の問題ひとつとっても、少人数で、複式学級といって、1人の先生が1つのクラスの中に2学年が入ってるような学級を担当するような、小さな学校があるんですよね。

そういうところでも、子どもたちが自分たちでいろんなことをやるし、縦のつながりも密ですし、いい学校なんです。魅力のある学校なんです。その一方で、ある程度の学校の規模があって、いろんなことができる、部活動もいろんなことができる、いろんな友達や人間関係ができるという、そういう状況もいいと思うのです。

だから、これはね、なかなかどっちがいいとかそういう議論にはならない。どっちもいいんですね。そういう中で、門真としては大きい、大きいという言い方は変ですけども、学年に少人数の子どもしかいないような学校ではなくて、ある程度の規模のある学校をつくってそこで豊かな人間関係を作っていきましょうという風に定めたというのが1番なんですね。だから、メリット、デメリットを議論し始めると、もうこれは沢山あります。どっちもメリットあるし、どっちもデメリットがあるのだけれども、そうは言いながら、門真はこっちを選択したことで理解していただいて、それで、じゃあ規模の確保をベースにしてこれからの検討を進めていきたいということなんですが、そういう説明を地域の方にさせていただければ。

委員

それはそれでいいと思うんです。私の地元が五月田小学校でして、もう今ほぼほぼ単学級で、自分の子どもが小学校、中学校だった時に大規模改修がありました。その時に保護者の立場ですと、校舎が綺麗になるのはありがたいですけど、どんどん子どもが減ってくるのが見えているのに、うちの学校はこの大規模改修されました。その当時はまだどの学年も2クラス程度ありましたが、でも減ってくる中で、なんでうちだったんだろうっていう疑問が残ったままで今に至ります。自分の田舎も隣の小学校は全校で20人ぐらいの学校で、すごく仲むつまじくしていました。別にメリット、デメリットの議論をする必要はないと思うんです。この場合は、学校を再編する、どうするかだから。メリットもあるっていうのをみんなが知っておくために議論するんじゃなくて、資料として持っておけば、何か聞かれた時に、少人数の方がいいじゃない、なのになんで。って言われたら、メリットもデメリットあるけれど、門真市では、財政のこととかいろんなものがあるからこっちに行くんだよっていう説明であったり、地域の人になんでだって言われた時に、しっかり議論したんかと言われた時に何も言えない。議論はしてないですよ。私は、そういう意味で、決まったからとは言いますよ。決まったからとは言えるけど、自分が納得いく説明ができるかって言われると、そういう議論ではないかなっていう風に思うっていうのが、率直な意見です。

会長

委員が納得できるのは例えばメリット、デメリットを提示するとか。

委員

五月田が小さいから。おそらくはというか、個人的には早く合併すればいいのになって思っています。そこで、じゃあ再編の議論が動き出したとなれば、地域の人に、審議会に入ってたんやな、中でどういう議論がされてたんですか。と言われた時に、理路整然と説明できると言いますか、なんかいいところも悪いところも含めて、今門真がなぜそこに向かっているのかっていうきちんとした説明であったりとかをしないといけない。だから、今からそれは審議されていく内容だと思うけれど、審議されていく内容が教育ももちろん大事だし、その他の議論もいるかもしれないけど、なぜこういう校区割りをするかという、その理由で

あったりとか、意義付けだったりとか、そういうのがちゃんとわかる、そういう議論をしていってもらえると、地域や保護者などにも説明ができます。これまでの議論だと、もちろん教育も大事だし、門真市としてはこう行くっていうのもわかるし、だから、そこの説明はできますけど、それを聞いた他の人も納得できるかって言うと、きっと納得できない人は納得できないと思うんです。なんでうちなんとか、別に1校でもいいやんとか。だから、そう言われた時にもちゃんとこういう理由もあって、こういう風に門真は向かってるっていう説明ができるような内容の検討がしたいなと思います。

委員

ベテランが言うけども、全部悩みがあると思う。大和田だったら、沖校区と隣の上野口小学校3つで1個にするだとか。大和田が1番端やから、なんであんな遠いところ行かなあかんねんといった問題は必ず僕にとか、会長に言うてくるんだよね。だからそこは説得力の問題で。もうあんまり遠かったらスクールバスを考えたりだとか。

会長

発言は重要ですから、遠慮なくおっしゃっていただいて。

委員

委員の話の視点と同じなんですけど、結局言いたいことって、僕の捉え方としては、10年後、20年後にこの再編がどうなってるのか、また同じような再編が行われるとか、そういうことがあっては困るんじゃないかっていう話だと僕は聞こえてるんですね。ですので、今回、第四次までのことが今まで行われてきたと思うんですけど、それはどういう視点でそういう風になって、水桜学園が10年後、20年後ってどうなってるのかなっていう時に、全部単学級になってたら、それおかしいでしょ、となるじゃないですか。ていう話を僕は聞いて、ずっと思っていて、その未来が見えるようにしてあげることであって、別に教育のあり方について、別に僕らは正直深く知って、どうこうとかいう意見はないっていうか、これで固まってることだからっていうの答えなんですね。その再編の先に何があるのかをもっと見えるように、この審議になっていくのかなっていうことでよろしいんでしょうか。

会長

それはとても重要な視点だと思います。

副会長

本当におっしゃる通りだと思います。これからの教育について門真はどう考えるのかということ、前の審議会でも随分検討されて、そこは固まったところなのですね。ですから、その復習をこの2回の審議会ですべてやってきたということで、このことについて、私たちはきちんと理解するだけでいいと思いますね。これから先は、どう再編していくのかということです。教育委員会の方にもお願いしたいんですけども、今後の学校のあり方の最終ゴールと言

うか、将来像のようなものを含めて「6番」として挙げていただくか、あるいは「4番」「5番」に付け加えていただければと思います。そのような最終像があれば、そこに向かっていく中で、先ほどおっしゃったような優先順位が見えてきます。全部の学校を同時にはできないので、どこからやるのか、このあたりの根拠をみんなで共通理解できたらいいと思うのです。根拠になるのは、結局、児童数の問題と学校の老朽化の問題、この2つになります。説明のあり方としては、「これまで門真は人のつながりを大切にするような教育をめざそうということが確認されている。その上で、子どもたちのつながりをどう作っていくのかということを経験した時に、やはり児童数の問題と学校の老朽化の問題から考えて、優先順位をこのようにつけました。」というようになります。最終的には、全てを小中一貫校にして、いくつかのエリアに作っていく方向です、というぐらいまで出せばいいです。いずれはなるという方向性が示されれば、厳しい言い方ですけども、なかなか地域などのコンセンサスが得られないんだったら、順番を変えて他の地域からやるということも議論されるようになるのではないのでしょうか。

もう一つ追加で言いたいのですが、小中一貫教育の場合、1つの中学校区でと考えるがちですが、もう少し広い視点で考えることも必要だと思います。京都の場合、東山区というところは大幅に人口が減少してきたので、中学校もいくつか統合し、2つの小中一貫校にまとまってしまうました。区としてたった2つの学校になったのです。このように、1つの中学校区での統合というだけではなくて、もう少し広いエリアで統合、学校の再編を考えられるということも少し付け加えたいと思います。

会長

ありがとうございます。さきほど事務局の説明の中で、場当たり的にならないという話があったと思います。だから、そういう意味で、ここここは少ないからくっつけようというのがまさに場当たり的なやり方で、そうではなくて、門真市全体を見通して、委員がおっしゃったように、10年後、20年後、この門真の学校がどんな姿になり得るのかということを見通しながら、一つ一つの再編について考えていくことが必要だと、お二人の話をまとめるとそういうことかなと思いますが、いかがですか。よろしいですか。

委員

この考え方、これからの教育を実現するための検討というのは、2016年の審議会ですよ。前回の審議会の中で検討されて、この方針が固まったことですよ。ということは、今すでに、水桜学園が8年に実施されるということは、8年先を見越して、こういう教育の場があるということで、とても素敵なみんなが交流できるような建物ができたわけですよ。ということは、今の時点からすると、これから先、10年先を考えた時に、今の水桜学園と同じ考え方の同じような建物ができるといいのかな。ということは、ちょっと問題かなとは思っています。そういう意味で、基本的に第四次で話された令和の日本型学校教育がなんでなのかということも少し整理する必要があるし、ここで1番求められているのは、主体的に自分が行動できるような生活を学校の中でしてくださいということですよ。とすると、そ

の考え方を元にした時に、学校というその抽象的な建物じゃなくて、学校という中で何を行わなければならないのか、何を中心に置かなければならないのかというのはきっちり抑えておかなければならないのかなというのは私の考えなんです。極端なことを言いますと、どの学校を統廃合するかというのについて1番よく知っているのは、教育委員会で現場にいてはる先生なんですよ。現場におられる先生と教育委員会なんですよ。その中で子どもたちがどうなっていくか、それプラス市の方向性というのにも必要だと思うんです。そういう意味でいけば、極端な話ですよ、教育委員会が学校の先生と話をして、こういう方向で進めたいからこの案どうですかねと3つぐらい出してもらって、その中で選ぶというのにも1つじゃないかなと私は思います。ただ、選ぶ前提として、どういう教育をその場で行われるのかで、それは時代の流れの中でこれから先どういう風に変わっていくのかというのを、今から2年後の話じゃなくって10年後の話として考えていく。教育の方法であったり内容であったりシステムであったりということは必要かなと思っています。その意味では、私はそこにこだわりました。もう1つ、現場の先生がこれから先、10年先のことを考えた時に、今できなくていいんですよ。でも、こんな教育をしたいな、こういう学校のシステムであつたらというのをもっとお話ししていただきたいと思います。実現できるかできないか関係なく、私はこういう教育をしたいんだっていうのをもっとお話ししていただいてもいいんじゃないかなと。それに1番近い方法であつたりとかシステムというのはいろんな提示があると思います。西先生なんかから、提示もいただけるかとは思いますが。8年と同じレベルでいいのか、それよりも先の子どものことを考えていった時に、1番子どもたちに近い、1番教育の中身について悩んでおられる学校の先生の話聞くのは私は必要かなとは思っています。

会長

すいません、だんだん教育の話になってしまいますので。さっき委員が言われたのは、教育論だけで統廃合はできないということだと思えるんですね。だから、そういう具体的な教育の中身については、やっぱり再編をどうするかというのと並行して議論していく必要があると思いますので、ここで今それを改めて議論するというのは避けたいと思います。

委員

いや、そういうこと言ってるんじゃないくて、統廃合されると言われる学校が、保護者にとってメリットあるなって思えることは、やっぱりこういう教育ができるんですよってことだと思えるんです。水桜学園だってそうですよね、子どもたちが頑張れる場所を考えて、建物を考え、ベースにあったのは何かと言った時に、やっぱり教育に対する考え方ですよ。その話を押さえないとできないし、建物の話だけじゃなくて、一緒になった時に保護者の人がこう変わっていったらすごいやないって思えることをやっぱり続けていかないとダメだと思えるんですね。その話の中には、これから先の子どもの成長とか、この学校の1クラスのものを複数にすることでこれだけメリットあるんですよという話は、やはり教育の考え方根底にあるという話をしてる、そのことだけなんです。

会長

基本的な考え方①に書かれてると思いますので、これをベースにして、今おっしゃったような、少し教育の中身をどうしていくのかっていうことについては、これと並行して議論するという事でよろしいですか。それと、提案でありました、教育委員会と学校現場で話し合っただけで出さず、この審議会では難しいと思います。逆に地域の方は地域の実情をととてもよくご存知なわけですから、そういう方たちや学校、もちろんここには、教育委員会もおられますので、この審議会のみんなで議論して方向性を考えていくということでもよろしいですか。

委員

はい。先生の話を出したというのは、今現在こういう状態からこうしたいんですっていう状態っていうのは多分あると思うんですよ。それはやっぱりここでは挙げておかないと、その先が見えない、子どもたちの状態がわからないまま、こうやったらええやないっていう理想論で終わってしまわない可能性があると思ったので。

会長

はい、わかりました。納得できるということに関しては、まだあんまり具体的にどこがどうなっているような話になってないので、わかりにくいのかもかもしれません。具体的に再編の話を進めていくと、こことここは一緒になって、なるほど、いいよねっていうことが見えてくるのではないかなと思うんですね。逆に言うと、そういう風にいいよねというのが見える再編をしていかないといけないと思うんですね。この再編の議論を進めていく中で納得感というのは徐々に出てくるんじゃないかなと思うんですが、いかがでしょうか。

じゃあ、皆さん納得いただいたということで。②③に関して、②は、単学級は解消しようという方針で臨むというのはよろしいですか。

委員

はい。

会長

ありがとうございます。それから、③の老朽化した校舎については、もうほぼ、どこも老朽化していますね。そうは言いながら、昭和39年から40年代につくられた学校など、築50年以上の学校もありますので、多少の違いを意識しながら、築年数を考えながらこの再編は考えて行くということでもよろしいでしょうか。それに加えて、1個1個の個別の建替えは基本的には難しいということと、逆に再編したら、校舎の建替えが付随すると考えていいでしょうか。教育委員会はいかがですか。

事務局

教育委員会としては、そこは固定するべきではないと思っています。この議論の中で新し

い統合した学校が改修でもコンセンサスを取れるのかどうかは議論に委ねたいと思います。そこは尊重した上で再編等を行いたいと思います。

会長

少なくとも校舎をいじるってことは間違いないということですね。

事務局

そうですね。今の校舎をそのままということは、②にも反しますし、誰も納得できないだろうと思いますので、最低限統合したときにメリットが出ることを考えたいと思います。

会長

それも一つの納得の材料だと思うんですね。いくつかを一緒にしたことによって、新しい1つの立派な学校がつくれるということも納得できる材料だと思いますので、新しさというのが建替えになるのか大規模改修になるのか、それはわからないけれども、いずれにしても手を加えていくということを前提に考えたいということで、これはいかがでしょうか。よろしいですか。

委員

はい。

会長

では、②③が定まったところで、あと④⑤に関して、④は今後のまちづくりを考慮した検討ということで、わかりやすく言うと、ららぽーととかコストコとかができたエリアは人口が増え始めている状況がありますし、逆に遠いところは減っている状況。それから、古川橋あたりの再開発とか、いくつかのまちづくりの動きがあります。そういうのも踏まえながら学校の再編を考えていきたいということ。学校づくりはある意味まちづくりなんですね。いい学校をつくったら、子どもたちが増える可能性があるわけで。西先生がおられた御所南小学校は、その典型です。今、京都で1番地価の高い、住宅を確保するのが難しいエリアが学校によって生まれているという状況がありますので、学校の力をまちづくりに活かしていくということも踏まえて、ここはお互いのフィードバックの関係を考えていきたいということです。それから⑤は、学校には歴史があります。門真は、元々の学校が人口増によって枝分かれをして増えてきたという状況があります。ある意味そういう血統的なものがあるわけですね。本家があって分家があって、そういう血統的な流れを大切にする必要があります、つながりやすさとかつながりにくさみたいなものを考えながら統廃合・再編を進めていかななくてはいけないことだと思いますが、それについてはいかがでしょうか。

委員

門真独特の地元の人間の大人の感覚というものがある。子どものことを考えた校区割りを

ぜひ考える必要があると思います。前回の審議会でも少しお話しさせていただきましたが、例えば、新しくららぽーとのところにできたマンションのところを速見小校区ではなく、門真小学校区にしたらどうですかという意見を言いました。やっぱり安全な道を通る必要があると思います。中学生ぐらいになれば、身体的にも大人に近づいてきていますが、小学校1年生で中央環状線を渡るとなると大変な労力になります。

古くからの神社の区割りがありますよね、祭りが開催されている時は、地域の祭りに参加して仲良くする。だんだん門真も若い人が増えてきているので、神社の区割りをまたがって校区を再編することなどはできるはずだと思います。

繰り返しになりますが、子どもの通学路の安全を第一優先に考え、校区割りを検討してもらいたいと思います。

会長

はい、ありがとうございます。道路ですね。通学路の問題を含めて、道路もこのつながりやすさ、つながりにくさの中に考える必要があるし、もちろんコミュニティという昔からのコミュニティも含めて、今のコミュニティのまとまりも考えながら進めるとのご意見ですので、それを含めてこの学校の特性を踏まえた検討を展開していきたいと思います。いかがですか。よろしいですか。

委員

今、本当に自治会加入者が減ってるんです。年々減ってるというのは、これは門真全体の問題、自治連合として問題になってるんです。いかに食い止めるか。まず逆に加入者を増やすか。頭打ちなんですね、1つは、面白くないから自治会費払ったのに還元がない。やってるつもりでも、実際そういう風に感じられてない。なので当然自治会費も減っていついつているのが現状なんですね。それ食い止めるため今模索中なんですけれども、イベントが昭和時代のイベントずっといまだにやってる。僕の感覚では、もうダメでしょっと。もっと開きませんか。やっぱりガラケー世代なんです、まだ牛耳っているのはぶっちゃけ。だから、スマホ世代がいたら、がらっと変わります。ただ、今いいことおっしゃったんですが、さっきの、神社の区割りとおっしゃいましたね、当然これ非常にネックになってます。神社っていうのは、氏子って言いますけども、いわゆる氏子で大きく分かれてるんですね。村が村社会、まだ門真は村です。この意識が非常に強い。それで牛耳ってるわけですから、なかなかこれを、壁を破ろうと思ったら、我々もよそ者扱い、地の人の壁を破ろうと思ったらなかなか。いいんだろうけど、まだまだ非常にネックなってます、実は、自治会に加入している方の人数も減ってきているから、当然統合しなければいけないんですね。ところが、さっき言っただんじりの関係で統合できないのがネックなんです。私は野里町なんです、野里町に東と西との2つ自治会があるんですね。私、東なんです、西の方が実はだんじりで、こっちの神社、東はこっちの神社と派閥じゃないんですけど、ありますよね。

野里西の方が消滅しそうに小さくなっていつてるので、うちと統廃合して一緒になりませんか、うちの予算もいろいろ分けますよとか言うても、神社の関係でうんと言わない。それ

が問題かなと思います。要するに学校の不安もそういった意味ではまだ大人が牛耳っている世の中では非常に足かせになっているのはその昭和世代のアナログ世代の人たち。なんやかんや言うても、経済基盤を押さえてるわけですから。

会長

ちなみにどちら派ですか。

委員

私はスマホ世代です。

会長

わかりました。そういう意味で、つながりやすさ、つながりにくさは、いろんな条件が、地域独特の問題も特色も含めてありそうなので、これは議論の中で、こういう問題があるんじゃないかとか、こことここがくつつきにくいというようなこともおっしゃっていただければいいと。だから、そういう条件を⑤に入れておきたいということですが、いかがですか。

ありがとうございます。それから、さっき委員や西先生の話を含めて、将来像をやっぱり見通しながら、あるいは門真全体の学校が今後どういう風になっていくのかというマスタープランみたいなものをある程度意識しながら個別の再編について考えていくということだと思いますが、これを⑥として入れたいと思いますが、いかがですか。よろしいですか。

委員

はい。

会長

これを⑥に入れることに加えて、私の考えなんですけれども、今、小学校単位とか中学校単位になってますけれども、場合によってはですよ、場合によっては、1つの小学校に対応している学区を分けるとか、一部同士をくつつけるとか、学区そのものの見直しも含めて検討してはどうか。将来の全体像を考えた時にそういう可能性も入れておきたいと思いますが、いかがですか。学校単位とか学区単位というのをあんまり固定的に考えない、そういうことです。

委員

極端な話なんですけれども、今おっしゃっていた地域のつながりもあると思うんですよ。学区がどこにあったとかとすると、一旦そこをリセットして、学区制を全部外した状況の中で学校を考えるっていうのがあっていいかなと。それともう1つ、学校がどういう教育の姿勢を示していくか。子どもたちが絶対なんですけれども、今と同じような先生に教えてもらうのがあってる子どももいますし、自由にやってと言われるのが合ってる子どももいるから、学校のそれぞれを同じ門真だからって一緒にしてしまうんじゃなくて、それぞれ

の特色を持たした学校を作っていくというのも1つありかなと思います。そうした時に、足がないとおっしゃっていた。そういうところでは、スクールバスを巡回させるとかといっても、また1つ考えられるかなと思うので、ちょっとそこらあたりも含めてという、さっき言ったように、教育をどう考えるかっていうところがやっぱりそこにはどうしても必要になってくる。

会長

はい、ありがとうございます。他に⑥、あるいは全体の①から⑥までを通して、何かご意見等あればお願いします。

委員

今日機会があれば発言させていただきたいなと思っていたんですが、前回からずっと復習させていただいて、自論ですけれども、学校は1つでいいんじゃないかなっていうのを考えています。先ほど西先生のゴールってという言葉、どうしていききたいかっていう門真のこれからの編成を考えていくと。1つだけあれば、ターゲットが1つとなり、教育の共有、共通性も維持できるなとか、単学級なんかあつという間に解消できる。老朽化した学校、その後のケアについても、1つだけ見ればいい。ハードの面についても、多少考える先が減るというだけでいいかな。④、⑤については、大きい問題抱えるかと思うんですけど、極論を言いましたけども、学校数を極端に減らすというのも、元の状態、分かれていくまでの状態に戻すっていうのも、すごく、非常に今回の視点としてはメリットあるんじゃないかなと思ってます。地域については、学校と地域を同じように考えるのはもう無理だと思います。これは、ちょっと余談ですけど、私自身、自治会長もさせていただいてるんですが、先ほどの委員と同じような悩みがあるんですよ。もう同じことをやっても無理なのはもう明らかだなと。だから、地域と連携とっていくのは必要ですけども、同じ形で考えていくのはもう不可能だと思います、体感的に。そういった意味では、学校と地域、学校単位で自治会とかも構成されていますけど、それはあまり考える必要はないと思います。切り離してからやるということの方が現実的だと思います。今後、そういった意味で、ハードが1つになれば予算のこととかもあると思いますんで、スクールバスが当たり前のこととして、なんかそこにも費用取っていきけるんじゃないかなと。それは財政のことどこまでかはちょっとわかりませんが、保護者、PTAとして各学校話しさせていただくと、やっぱり予算がないってことで、すぐこう全ての意見が切っていかれるっていう状態を考えると、スクールバスなんかも一極集中すればできるんじゃないかなとかですね、そういう期待を淡く思ってます。ちょっと極端な言い方ですけども。そういったことで、対象先をやっぱり減らしていければ、ソフトもハードもある程度管理していくのは大いに有効性があるんじゃないかなと思います。

会長

思い切った再編をということでもいいですね。

委員

はい。

副会長

今の「最後は1つ」という考えも面白いと思います。先ほど横山先生から言っていたように、元々私自身、統合した学校におりました。ここは9つの学区です。これが統合して、最後5つの小学校になった時点で、この5小学校を統合しました。そこで、京都の市民は面白いことを考えました。「校区」ということと「学区」ということを分けました。大人はそうやって分けて考えることができるのですね。だから「学区」は「学区」として存続して、「学区百何十周年」とかされるのです。でも、「校区」はそれとは関係ないと考えられたのです。統合した当初は、最初は元の「学区」の行事をそのまま続けようとされました。そのうちに、いや、これはおかしいと大人たちは考えたのですね。「校区」全体に「学区」の行事を広げましょうというように、みんな広げていきました。結局1つの共通行事になっていました。ですから、大人の方が、そのあたりは柔軟になって、これから子どものことを考えればよいのではないのでしょうか。今の地域性を生かしつつ、「校区」と「学区」を分けて考えるということです。

会長

ありがとうございます。その方向で検討して行こうと思います。

他にございませんか。なければ、①から⑥までということで、今日の意見を踏まえて、この基本的な考え方がこれからのペースノートになりますので、事務局で加筆修正をお願いします。それで進めたいと思います。

それでは、具体的な地域で、どのような対策を考えていくかということに入っていきたいと思います。

スタートとして、この基本的な考え方の①はオッケーとして、②、③の子どもの数、学校の古さということについて、少し共通認識を持って、それから議論を始めたいと思いますので、事務局にご説明をお願いします。

事務局

はい。それでは、まず②の児童生徒数から説明をさせていただきたいと思います。資料は3、それから4、両方A3のものです。資料3につきましては、これから、前のスクリーンでも同じように写します。書き込み用のペンなんかも置いてありますので、自由にご記入いただきながら、お話聞いていただけたらと思っております。それでは、まず資料4の子どもの数たちを見たいと思います。なお、第四次答申の統合対象であります脇田小、砂子小学校、第四中学校、四宮小、北巢本小学校については、除いて説明をさせていただきます。前にも映しておりますので、良ければお手元の資料と見合いながら見ていただけたらと思います。

まず、小学校で見ますと、令和5年5月1日現在、最も単学級、1クラスの学年が多い学

校は、第七中学校区の五月田小学校でございます。五月田小学校は、現在、一学年が2クラスで、残りの5学年はすべて1クラスとなっており、推計上ではありますが、令和7年以降、全ての学年で単学級になるというような見込みでございます。良ければ、五月田小学校の地図のところに、前の画面と同じマーク等を入れていただけたらと思います。

続いて、第二中学校区の大和田小学校です。令和5年時点で8学級です。そして、五月田小学校同様、令和7年度以降については全ての学年で単学級となる見込みでございます。こちら中央付近ですけれども、地図の方もしよろしければマークを入れていただけたらと思います。

続いて、全ての学年で単学級となる見込みではないんですけれども、門真はすはな中学校区の古川橋小学校、それから第二中学校区の上野口小学校が、令和11年度見込みで8学級になるという見込みでございますので、6学年あるうちの4つの学年が単学級になってしまうというような見込みでございます。その他にも、単学級になっていく小学校がありますが、時間の関係等もありますので割愛しまして、次に中学校を見ていきたいと思います。資料4の2枚目になるかなと思います。中学校については、1学年3学級以下の学校、つまり、3つの学年なので、3学年で9学級以下の学校が国や門真市の基準でいう小規模校にあたるんですけれども、資料を見ていただきますと、なんと門真はすはな中学校以外全ての学校が、令和11年度頃までに小規模校になってしまうということで、ちょっと全部のマーク入れるのもあれですので、中でも特に学級数が少ない学校をお伝えできたらと思っております。それが、第七中学校でございます。これも推計上の見込みでございますけれども、令和10年には、全ての学年が2クラス規模になる見込みでございます。

一旦、②の児童生徒数については事務局からの説明はここで終えたいと思います。付け足し等もしあれば、前の画面等でも付け足せたらと思っておりますので、よろしく願います。

会長

はい、ありがとうございます。さきほど、基本的な考え方ところで、単学級の解消をめざすということで、この単学級になっているところ、あるいは今後もっと増える可能性があるところは、五月田小学校が各学年ともほぼ単学級、大和田小学校もほぼ単学級、数年後には、古川橋と上野口も大半の学年が単学級になるということで、五月田・大和田・上野口・古川橋という、縦ラインで、人数の少ない小学校が集まっているという状況があります。だから、ここら辺をどうしようかということが、この会での議題の一つになると思います。あわせて、中学校でみれば、五月田が減っているので、その進学先の七中も減っている状況です。この七中の校区というのは、五月田と二島ですか。どういう風な再編を考えるかという時に、1つ中学校のまとまりということも踏まえながら考えていくということになります。何かご意見ありますか。なかなか乱暴な尋ね方をしましたので、少し地元の方で今どんな状況なのかっていうのがお分かりであれば教えていただきたいんですけれども。五月田の方はいらっしゃいますか。もう本当に子どもは少ないのでしょうか。

委員

少ないです。過去には脊戸先生も来られたことがあるので、その当時と比べるとどんどん減ってるのは、よくご存じだと思います。

委員

結局やっぱりどんどんこの見た通りグラフの通りに減ってきていますので、先ほど委員も言ったように、単学級になるとやはり教育活動としたら成り立たないものもたくさんあるので、早く解消してあげたらいいなと思いますけど、委員がおっしゃったのと一緒に、どんどん減っていくのがわかっているのに、大規模改修して、ものすごい美しい学校になったんですよ。その時、はてなとなりました。その時は審議会にも入ってないから、何故そうなったのかわからないですけど、それだったら、その時に、古くなる七中とずっと一緒に使えるように、統合して、小中一貫とかにすると考えられていたらなとか、ちょっと思ったんですけどね、今更です。もう過去のことは変えられないので、やっぱり先を見通して、もう12、3年経ってから、こんなことが出てこないように、大きな観点で考えていけたらと思います。そして、やはり校区は取っ払って、学校と校区を別に考えて、というのを推進していただけたらなと思います。学校にいるものからしたら、少し乱暴な言い方ですが、もう学校のことが一番なので、地域とか校区とか二の次なのです。失礼ですけど。もう極論で言えば、「子どもたちがたくさん、ちゃんと通いやすくて近いところにいければいい。」としか思わない。けれど、やっぱりその辺りは地域の方の歴史とか想いを踏まえて考えていかないと、勝手な学校の都合だけでは、やはり統合はできないなという風には思ってます。

会長

ありがとうございます。

委員

大和田小学校も減っています。名門です。門真と大和田いうたら。門真でも1、2を争う名門です。

会長

例えばですね、再編するとしたら。どういう相手があり得そうですか。

委員

地元の人には怒られるけど沖小と隣の上野口小学校とこの3つぐらいで、1個にせなしゃあないんちゃうかな、僕的には。大和田小学校は遠いじゃないですか。学校も古いし。1番辺鄙なんですよ。大池町から1番遠いんですよ。僕の地元の自治会館やってるんですけど、うちらは沖さんか、上野口さんに行かしてもらった方が近いんですよ。

会長

この図でいくと、右側なんですね。

委員

そうです。

会長

なるほど。じゃあ元々学校は遠かったんですね。

委員

昔の4つしかない頃は良かったんでしょうね。

会長

大和田、沖、上野口で第二中学校区ですか。

委員

おっしゃる通りです。

会長

そういう中学校としてのまとまりは一応あるということですね。

委員

そうですね。

会長

さっき委員から話が出た、道路の問題がありますよね。

委員

沖小と大和田小が統合になれば163号線を渡るという問題はあると思います。

委員

昔、大和田小学校と上野口小学校の統合の話が上がったんですが、ぽしゃったんですね。何が原因かと言うと、大和田小学校の名前が消えると。やっぱりほとんど大和田小学校出身なんです。母校の名前が消えると。

会長

それは教育委員会からの話じゃなくて、内発的にということですか。

委員

地域からの反対があったということです。

会長

また、その可能性あるんですか。

委員

さあ、どうでしょう。神社等の色んな絡みがありますよね。

会長

古川橋はどうですか。

委員

どうですかね。未来に置いていかれた感じはありますよね。

会長

どういうことですか。

委員

いや、同じ中学校区なんですけど、未来ができる時に、古川橋はやっぱりちょっと規模的にも少し分けてもらったら、もうちょっと規模大きくなったんかなとかですね。そう思いますけどね。

会長

切り方が違う。

委員

その当時の都合あったと思うんですけど、なんか未来も、どっちかという校区的には辺鄙なところにあると思うんですけど、以前の各小学校とかの統合の事情もあったりとかで、今の状態になってるかと思うんですが、未来になる時に、いくぶんか古川橋小学校の方へうまく校区を割ってもらったら、古川橋小学校は、今単学級で悩まなくてよかったかなとかという。やっぱりその当時の校区の切り方っていうのは非常にネックになってるんだなという実感はあります。

会長

ちなみに門真未来小学校は、どこが統廃合してできたんですか。

委員

北小学校と、中央小学校と浜町小学校の3つです。

会長

3小が一緒になったんですか。

委員

元の浜町小学校のところにできました。

会長

その時古川橋小学校は検討の対象にはなっていないのですか。

委員

全然入ってない。なってない。多分めっちゃくちゃ遠くなるからやと思うんですよ。

会長

右上の校区が横に長いんで、その問題があったんですね。

古川橋がどこかと一緒になるんならみらいですか。

委員

どこかの一緒になるために距離が遠くなるのなら子どもが可哀想だなと思います。

今の場所でも端の方からだったら30分近くかかるみたいなんです。

会長

そんな長いんですか。

委員

小学校の位置がもうちょっと真ん中よりだったらだいぶ違うんですけど。

会長

上野口の方はどなたかいらっしゃいますか。

委員

上野口小学校は二中校区でまとまりつつあるんですね、大和田・沖と二中校区での会議がまとまりつつあり、いいものが作り上げつつあります。古川橋からだったら線路を超えてくることになりますね。線路から向こうはあまり馴染みがないですね。

会長

馴染みがない。

委員

それこそ大和田駅挟んでどちらが表ですか。という議論があるんですね。

委員

どちらが表でもいいじゃないですか。裏のない駅でいいんじゃないですか。

会長

ここら辺なんとかせんといかんっていう感じですね。沖小はまだ安定している感じですかね。

二島はどうですか。

委員

元々は私たちが子どもの頃の4つの学校ですよ。門真、大和田、四宮、二島の4つの小学校だったんですよ。150年超えてるような学校なんです。元々この頃は人が住んでる位置がその4箇所周辺しかなかった。それ以外は、全部沼地と田んぼだった。そこから新しく出てきて、二中の東側は空き地になっているんですが、ここら辺は農地として残しています。後、倉庫です。その関係で人口が少ないです。

二島というのは区域が大きいんですよ。中央環状線を超えて端の小学生は100m行くと、他市の学校ですが、越境できないために45分ほどかけて通っているそうです。

会長

これは最長ですか。さきほど30分という話でしたが、こちらは30分越えますね。

委員

二島は稗島、三ツ島、上三ツ島、下三ツ島の3つの村がありまして、そこは、だんじりなどのつながりが強いです。

委員

南の三ツ島の一部が砂子小学校に入ってるんですよ。そこが水桜に行ったんですよ。

会長

そういう前例があるんですね。

委員

そこは新興住宅地だから、二島の人にしたら外れだし、あとでできた所なので、そっちに行ってもらってもいいよっていう。砂子水路よりも東だから、もうあっちに行ったら良いなみたいな感じです。

会長

じゃあ、さっきおっしゃったコミュニティと学区が違うわけですね。

二島は触れられないと思っていましたが、これまでの議論を踏まえるならば、触る方向に進みたいと思うのですが、地域を代表しておっしゃっていただかなくても結構ですので、どう思われますか。

委員

私が小学校に通っている時の校舎は、昔よく学校の平屋の校舎があったんですよ。それがもう 50 年もあるみたいな今のように建て替えて鉄筋になったんで、我々の年代としてはもう終わったような感覚なんです。

統合されても仕方ないなというような感じは持ってるんですけどね、我々の同級生で話をした時は。

会長

なるほど、少しそういう機運が高まっているんですね。

委員

それはあります。愛着というのは、やっぱりその校舎がなくなった時点でだいぶ消えています。

会長

逆に、もう今ほぼ安定してる、あんまり触る必要がないというところは、まずはみらい小ですかね。古川橋の問題は依然として残りますが、それから、水桜学園エリアに関してはほぼ安定してる。ただ、東小学校の一部は水桜学園の方が近いが、第五中学校に通うということになっている。門真小学校、速見小学校も含めて、そんなに遠くない先に子どもの数が減っていきそうな状況がありますので、それを含めてこのエリアについてもどうしようかということは今後議論が必要です。その時には、小学校の再編、それから中学校の再編、それから一貫校の中でも、水桜学園のように、施設一体型、小学校と中学校が同じ建物になっているものが一貫教育の効果が上がりやすいということが言われていますので、そういう一体型の一貫校を睨みつつ、小学校、中学校、それから校区の再編を考えていくということで進めていきたいと思いますが、いかがですか。

委員

エリアに絞って議論を進めて行くということでそれでいいと思いますが、その際に、ららぽーととかできたということで、園児数は増えていっているのかどうかとか、なんかその辺りのデータがほしいと思います。新興住宅地の住宅地の計画や古川橋とかですか、あの辺で、なんかもし計画があるんだったらその辺の情報もあった方が 10 年後、20 年後を見据え

た議論がしやすいのかなと思います。

委員

今回の審議会では議論の必要はないかもしれませんが、古川橋の駅前に高層マンションが建つ予定です。駅の北側になります。多分8年後ぐらいにマンションが出来上がり、みらい小学校の人数が増えていく可能性があります。将来的にそういったこともあるというのを踏まえて、検討いただけたらと思います。

副会長

通学路の問題で先ほど古川橋小学校の端から30分ぐらいということで距離感がよくわかりました。大体、京都の統合校も、学校から遠い子どもたちで30分強かかります。でも、今は手元にデータがないのですが、通学時間が長い子の方がかえって学力が高いっていうようなデータがあるんですね。

会長

そんな話があるんですか。

副会長

もちろん、近いからだめというわけではないのですが、学校が遠い子をいうのは、きちんと計画的に家を出なくてはいけないのと、やっぱり毎日歩きますから、それは体にいいんですね。だから、通学距離が遠いからと言って、それだけでデメリットっていうわけではないと思います。30分という範囲を基準にして、仮に大和田小学校を中心に置くと古川橋小学校も上野口小学校も入りますし、大和田小学校も五月田小学校も入ります。第二中学校も、それから速見小学校、場合によっては門真小学校まで、徒歩30分圏内に入ることが言えます。ですから、45分をどうするのかとかいう問題もあるのですが、決して遠いからダメというわけではないかもしれません。もちろん安全性の問題やスクールバスの検討などはあるのですが。スクールバスをよく見かけるのは割と僻地の方です。ただ、バスの移動があるので、どうしても時間が限られて、子どもたちが遊ぶ時間がなかなか確保できないというデメリットがあって、一概にバスを用意したらいいということではないかなと考えられます。

委員

ありがとうございます。2つありまして、今のお話。僕の息子が砂子小学校まで歩いて30分弱ぐらいあったんですけど、その影響もあって、僕の家で宿題カフェっていうのを枚信金さんがやってくださっている。そこに来る人が減ったっていう話。だから、帰る時間、下校時間が長くなったから、そういう遊ぶ時間が短くなっている。今の話聞いた時に、そういう影響あるのかなっていうのは思いました。もう1つは、さっき岩佐先生のお話から、なんかふわっと話聞いてて疑問に感じたんですけど、その10年、15年先っていうあたりという話がさっき出たと思うんですけど、この第五次って実行に移った時って10年後ぐらいの

話じゃないですか。ていうところでいくと、決してこの門真速見が後回しっていうわけじゃなくてっていうところで、今の話とリンクするのかなと思ったんですけど、その辺りいかがですか。

会長

いや、おっしゃる通りだと思います。当然視野に入れて考えて、さっきのマンションの話は視野に入れとかなきゃいけない。

委員

能登半島地震でどこへ避難してるかっていうと、学校なんですね、市役所の職員が応援に行ったと思うんですが、帰ってきた人の話聞きますと、はい、何が困ってるんだ、トイレなんですって。トイレがもうすごく困ってる。食べ物は外から来る。寝る場所は学校で分散してる。でも、トイレだけは下水が詰まったらなんもできへんということで、皆さんビニールで自分でやって、凝固剤入れて、ゴミとして捨てる。その処理に門真市のパッカー車が行って、結局、言葉悪いですが、うち処理に行ったんですって。それが現状だって。合わせて思ったのは、それで学校1つにしちゃうと、古い廃校になった学校をそういった場所に使うのか、災害場所に使うのか、あるいは潰して更地にしてしまうのか。いざと考えた時に、やっぱり耐震補強された学校は当然いるでしょうし、元々門真全体が水田ですからものすごい液状化になって、耐震化した建物でも、おそらく住宅は傾きますよ、壊れないにしても傾きます。傾いて住めるかと言うとできない。だったら、当然避難場所に行っちゃう。ものすごい人数が学校に集まる。上野口小学校ですが、一応200人来るだろうと想定でちゃんと防災計画を立てているんです。来た時はどうするか。体育館の変容とか、学校の使える教室、使えない教室、職員室を使ってはいけませんから、後、バリアフリーじゃないんです、上野口小はエレベーターがないんです、階段だけです。障がいをお持ちの方が来たらどうすんの、車いすが来たらどうすんの、あるいはペット連れてきたらどうすんの。車中泊はどうすんの。とか色々考えたら、最悪のことが起きた時に考えて、やっぱり学校の編成ということを考えておかないと。1つにまとめて、全員がそこ来たら、もうとんでもないことになります。パニックになると思います。何も稼働しなくなると思います。だったら分散化して、小規模じゃなくて、中規模ぐらいの感覚でいた方がよいのではないのでしょうか。でないと子どもを守れない。大人が守っていかなあかん。

会長

はい、ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。今日はスタートで、ようやく具体の議論を始めたところなので、これからずっとどうするかということを議論してもらおうのでよろしくお願いします。それともう1つですね。参考のために学校の老朽化の話も合わせてご説明いただいた方がいいと思いますのでお願いします。

○門真市立学校のあり方について

事務局

事務局から説明させていただきます。資料5になります。まず、地図を見ながらこの資料を見ていただければいいと思います。同じような学校が上がってくるかなと思います。こちらでも第四次答申の統合対象を除いてご説明させていただいています。上から順に並べてるんですけども、見ていきますと、第二中学校の築年数が最も古く、令和5年時点で築59年でございます。つきましては、答申出るころにはもう60年を過ぎているというような状況でございます。続いて門真小学校、それから大和田小学校、古川橋小学校が築58年、1年違いでございます。次いで門真小、速見小の校区にあります第三中学校が築54年でございます。今、築50年以上のものを全てお伝えしようと思っております。さらに、門真みらい小学校が築53年、沖小学校が築52年、速見小学校が築51年なんですけれども、こちらの3校につきましては大規模改修をしているというような状況でございます。最後に、上野口小学校が築52年、それから1番下にあります、二島小学校が築50年というところでございます。以上が、令和5年時点で築50年以上経過している学校でございます。

会長

はい、ありがとうございます。1番古いのが中学校なんですね。この二中、ここはなんとかせんといかんという状況が近づいているところだと思います。それから、小学校に関して言うと、門真、大和田、古川橋が古い。さっきの児童数の減少と合わせると、大和田、古川橋あたりがある意味一番緊急度の高い学校ということになってきます。かと言って2つをくっつけるとかいう話じゃないですよ。議論の中ではちょっと優先して考える必要があるかなという状況の学校ということなんです。というので、古さというのもどことも同じように古いんですけども、特にこの4校は校舎も老朽化が著しいということで、それを踏まえての議論が必要だと思います。ここまで議論をして、具体的話に入ってきましたので、その具体的話を次回はもっと詰めていくという作業をしていきたいと思いますが、いかがでしょうか。今日参加の方で、まだご発言していただいてない方、今日の進め方について、あるいは今後の見通しについてご意見あればお願いします。

委員

ほんまに毎度勉強させてもらっているなと思うんですけど、なんか具体的なこととかは現状では僕の知識では出せないんですけど、一応先生になるつもりで、今も勉強中です。子どもたちがやっぱ勉強しやすい環境とが1番大事なのかなというのと、単学級だとその門真がめざすつながりっていうのは絶対無理だと思うので、とにかく単学級をなくすというのが僕個人としては大事かなと思います。また勉強して次回発言できるようにできたらいいなと思います。

会長

ちなみにどこの小学校出身ですか。

委員

速見小学校です。

会長

はい、ありがとうございます。では、他にいかがですか。

委員

やっぱり小学校も大事なんですけど、通学路というのがすごく大事ななっていうところを思っています。私の孫が小路町、堂山町付近に住んでいたんですが、中央環状線を渡ってみらい小学校に通うという、片道 30 分コースだったんですが、通学路が心配だということ、寝屋川市に引っ越してしまったところがギリギリまでみらい小学校に通う予定だったんですが、学校も大事なんですけども、子どもの安全というのは 1 番考えないといけないところもあるのかなっていうのを痛感しているところもあります。

会長

はい、ありがとうございます。他にいかがですか。

委員

色々思いだしたことがありますして、門真小学校は古いのにどうして改修していただけないのかなと言った時に五月田小学校がきれいになって、それを思い出したんですね。PTA やっていた時にそういったこともあったなと思いました。それと、だんじりの関係で、統合するのが、北小が門真小学校と一緒にするというお話もあったんですけども、北小のだんじり関係で門真小学校と一緒にならなかったという、そういうお話もちらっと耳にしました。

会長

そういうのも大切ですし、思い切った学区と地域は切り離して考えるっていうことも今後はある得る。

委員

それとね、いずれ、統合していくじゃないですか。先ほど地震のお話がありましたよね。今、避難場所が近くの小学校って、その時に、どんどん、どんどん遠くなるということですよ。その時に、その高齢者をどうしたらいいかっていうことも考えました。

会長

あとは、跡地の活用というところですよ。防災コミュニティセンターのようなものとして活用するということもあり得ますし、それも含めて検討していきたいと思います。こんな内容や方法で次回も進めますので、皆さん地図とか色んなものを見ながら、こうやっていいん

じゃないかって、おひとりずつアイデアを出していただけるといいなと思います。立場を超えて色んな意見を出していただきそれをご検討いただいて、次の会で教えていただくという風に進めたいと思いますので、よろしくお願いします。本日の検討はこれで終わりにして事務局にお返しします。

事務局

はい、ありがとうございます。今年度、令和5年度の審議会としては一旦これで終わりだと考えています。令和6年度、引き続き第4回をまた日程調整させていただきながら進めたいと思っておりますので、ちょっと今日の時点で次の日程をまで決めきれていないですけども、また皆さんと日程調整させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

会長

じゃあ、どうも今日はありがとうございました。